

2023年12月4日

エコアクション21

環境経営レポート

第68期

2022年10月から2023年9月



®環境省

エコアクション21

認証・登録番号 0003809

吉見商事株式会社



吉見商事株式会社の環境基本理念

吉見商事株式会社は、『士魂商才』の理念に基づき、自他の利益を生み出す本物の商売人として電線、伸銅品、抵抗線、電気機器、圧着端子、防振ゴム台、端子付リード、絶縁物全般などを販売するに当たり環境保全に取り組むことが重要課題の一つであることを認識し、環境との調和やお客様を含めた地域社会との連携・融和をはかりながら、進歩・発展していくことを目指します。

環境経営方針

私たちは、当社の事業活動が環境に及ぼす影響を考えると、有害なものは極力その発生を抑え、有益なものはより増加させるべく全社的に、以下の活動に取り組みます。

- ① 事業活動において空調機器の効率運用、LED照明の導入やPC電源の管理等で消費する電気、また「エコドライブ」の徹底及び「低燃費車の導入」によるガソリン等の省エネルギーをはかり、地球温暖化防止に努めます。
- ② 環境関連法規や顧客からの要求事項を遵守し、地域社会との調和に努めます。
- ③ 事業活動に伴って生じた事業系一般廃棄物の削減と、顧客から回収するプラスチックボビン等の巻枠のリサイクルを進め省資源に努めます。
- ④ 環境負荷低減に資する製品・情報の提案・普及に努めます。
- ⑤ 販売業として配送方法・配送ルートの見直し、各種情報ミスや配送事故等による再配達を減らす事で二酸化炭素等の環境負荷物質の低減に努めます。

この方針に沿って全ての従業員が高い環境意識を持ち、環境保全を継続的に改善することを誓います。

吉見商事株式会社
代表取締役 吉見 猛

I. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

吉見商事株式会社

代表取締役 吉見 猛

(2) 所在地

東京都港区浜松町1-22-1 fftビル2階

(3) 環境保全関係の担当者連絡先

環境管理責任者： 宇田川 貴行 TEL:03-3436-4431 FAX:03-3437-0443

(4) 事業内容

電線、伸銅品、非鉄金属、抵抗線等販売業

(5) 企業の規模

売上高： 1710百万円 68期 (2023年9月期)

従業員数： 14人 (67期現在)

事業所延床面積：86.13㎡

(6) 事業年度

2022年10月1日～2023年9月30日 (68期)

(7) 発行日

2023年12月4日

II. 認証・登録の対象組織

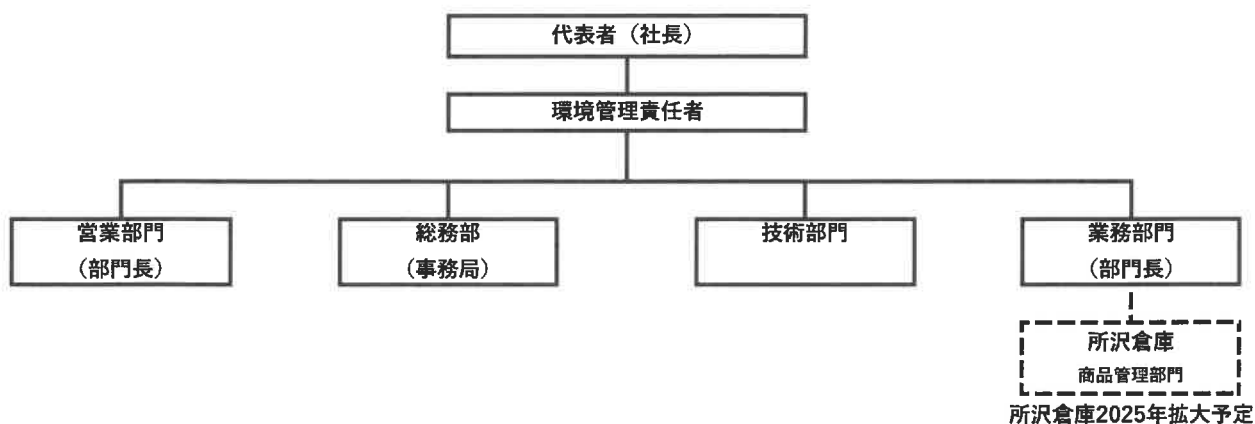
(1) 登録組織名

本社：東京都港区浜松町 fftビル2階

III. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

制定日：2018年10月1日

改定日：2023年10月10日



	役割 ・ 責任 ・ 権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する総括責任 ・環境経営システムの実施に必要なものを準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境経営目標・環境経営計画書の承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認 ・課題とチャンスの明確化 ・実施体制の構築と周知
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表の作成・照査 ・環境経営目標・環境経営計画書の作成 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの作成、公開
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
EA21推進委員 (各部門長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営目標、計画書の審議 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 ・決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動に参加

IV. 主な環境負荷の実績

項目	項目 単位	65期 (2019/10～)	66期 (2020/10～)	67期 (2021/10～)	68期 (2022/10～)
二酸化炭素総排出量	二酸化炭素総排出量kg-CO2	16,599	16,878	14,878	14,550
電気+ガスの総排出量	電気+ガス総排出量kg-CO2	6,905	5,235	3,361	4,387
事業系一般廃棄物	事業系一般廃棄物 kg	778	808	729	840
産業廃棄物	産業廃棄物 kg	1,250	480	58	56
総排水量	総排水量 m ³	165 (1F～3F)	128	84.7	53.6
		ヨシビル359.85m ³ (倉庫含む)	～1月ヨシビル359.85m ³ 2月～仮事務所106.99m ³	仮事務所106.99m ³	～1月仮事務所106.99m ³ 2月～新社屋86.13m ³
			事務所・倉庫移転		事務所移転

二酸化炭素総排出量は電気、ガス、ガソリン、軽油の合計値

二酸化炭素排出係数 0.452kg-CO2/kwh (購入電力)

電気+ガス総排出量は2021年2月から電気のみ、ガス設備無し

事業系一般廃棄物は f f t ビル+所沢倉庫の排出量

産業廃棄物：ポビン回収業者を変更、再使用不可ポビンはリサイクル・再使用可ポビンはリユース

V. 環境経営目標及び実績 (68期 2022年10月～2023年9月)

項目	年度	基準値 (基準年)	68期 (2022/10～2023/9)		評価	69期 (2023/10～2024/9)	70期 (2024/10～2025/9)	71期 (2025/10～2026/9)
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素の削減	kg-CO2 基準年度比	新社屋へ移転の為 データ収集後設定	5,011 (66-67期平均)	4,387 87.5%	○	新社屋移転につき データ収集	データ収集後設定	データ収集後設定
都市ガスによる二酸化炭素の削減	kg-CO2 基準年度比	ガス設備無			—	—	—	—
電気+ガスの二酸化炭素排出量	kg-CO2	ガス設備無			—	—	—	—
自動車用燃料の燃費向上	km/ℓ 基準年度比	67期実績値の維持	19.1	19.0 101%	△	19.1km/ℓ維持 前年度実績維持	前年度実績維持	前年度実績維持
一般廃棄物の削減	kg 基準年度比	64～66期平均値	879	840 95.6%	○	847kg以下 66～68期平均値以下	66～68期平均値以下	66～68期平均値以下
産業用廃棄物の低減	kg 基準年度比	67期実績値	58	56 96.6%	○	58kg以下 68期実績維持	前年度実績維持	前年度実績維持
水使用量の削減	m ³ 基準年度比	新社屋へ移転の為 データ収集後設定	85 (67期実績)	54 63.5%	○	新社屋移転につき データ収集	データ収集後設定	データ収集後設定
環境負荷低減製品の販売促進 (エコ電線)	km		数値目標無	135.0	—	数値を把握し 意識付け	数値を把握し 意識付け	数値を把握し 意識付け
環境関連資料の情報提供	件		未報告0件	295	○	未報告0件	未報告0件	未報告0件

VI. 環境経営計画（68期 2022年10月～2023年9月）

取組	対象	環境目標	実施項目
経営課題	資料の整備	・ B C Pの一環による資料の整備	・ 顧客及び仕入先の新規/変更時に追加/修正
		・ 顧客情報の整備	・ 営業ツールを活用し使用されている商材の確認と拡販を促す
	再配達ケースの低減	・ 間接的に二酸化炭素排出量の削減	・ O J Tによる社内教育 ・ 輸送業者への情報提供
	仕入先の拡充	・ 製品の安定供給	・ 情報収集とサンプル品の入手 ・ 海外製品の評価依頼と採用促進
省エネルギー	電気	・ 二酸化炭素排出量の削減（電気）	・ 電気量の数値・グラフのメール配信(毎月) ・ 夏場のクールビズの周知と外来者への掲示 ・ 各自の体調も鑑み室温の適正管理（目標設定は目安とする） ・ 事務所・倉庫の休憩時間の消灯 ・ 帰宅時のO A機器の電源OFF
	自動車用燃料	・ 自動車用燃料の燃費向上	・ 燃費数値の意識付け（1回/月発表） ・ 効率的な営業ルートの実施 ・ エコドライブの啓蒙(交通安全ジャーナルの回覧) ・ トランクルームや車内の2 Sの実施 ・ 買い替え時にエコ車の導入
廃棄物の削減・リサイクル	廃棄物・リサイクル	・ 事業系一般廃棄物の削減	・ 資源（プラ、新聞・雑誌、ダンボール）と生ゴミを含む一般ゴミの分別の徹底 ・ 梱包材の仕入先様への返却や梱包補助材としてのリサイクルの促進 ・ エコプラザの有効活用
		・ 事業系産業廃棄物の削減 ・ プラスチックボビンのリユース及びリサイクルの向上	・ 客先へのプラスチックボビンの美品保管依頼 ・ 引き取り要請に対応し回収したボビンの電線会社への有償引き渡し ・ 回収業者のサーベ ・ マニフェストの適正管理
節水	水	・ 水道水の削減	・ 使用量の数値・グラフのメール配信 ・ 水漏れを確認したら、管理会社に連絡する ・ 節水の継続的な啓蒙活動
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮	エコ電線	・ 環境負荷低減製品の販売促進（エコ電線）	・ 引き合い時に仕様及びメーカー指定の確認の徹底 ・ 仕様に合ったエコケーブルの勧め
	環境資料	・ 環境関連資料の情報提供	・ グリーン調達資料，SDS等の即応対応 ・ 毒物・劇物の適正管理（譲受書） ・ 受領済み回答資料の有効利用 ・ 未報告資料の定期的なフォロー実施

VII. 環境経営計画の取組結果(68期)とその評価、次年度(69期)の環境経営計画

数値目標 : ○達成 ×未達成
 活動 : ◎良くできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×まったくできなかった

経営課題	達成状況	取組み結果とその評価
目標	—	
・各種資料の作成及び整備	◎	・新規・変更時に実施し、資料のメンテを図った。
・間接的な二酸化炭素排出量の削減	○	・再配達が発生は各種ミスが主原因であり、社内に於いてはOJTによる教育を実施し再発防止に努めている。
・製品の安定供給	△	・電線やその他部材類の入手先の拡充を図ってきたが、それらを使用する原材料の供給不足等で一部製品の安定供給が出来ていない。

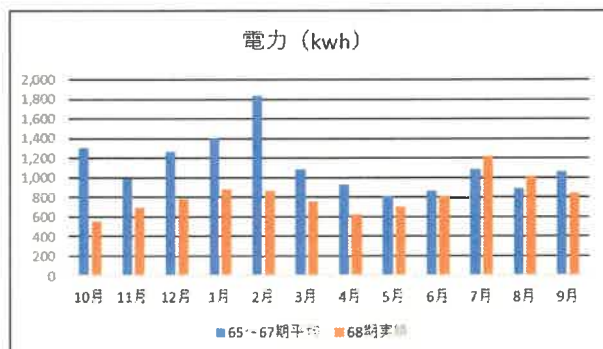
・取組み紹介

- ・顧客・仕先の住所、電話番号資料等を電子データとは別に紙ベースで管理保管の実施
- ・社内ミスでは直接担当者に事故状況の確認
 輸送業者には事故原因の報告と製品の費用を請求し、業者内での資料としてもらっている
- ・代替え製品の品質情報や入手方法の確認を実施している

・次年度の取組み計画

- ・引き続き次年度も上記の取組みを実施して行く

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み計画
数値目標	-	・事務所移転によりデータ収集
・室温の適正化(冷房26°C、暖房22°C)	○	・室内の構造や各自の体調も鑑み、室温の管理は目安としている。
・事務所・倉庫の休憩時間の消灯	○	・継続的に実施している。
・帰宅時のOA機器の電源OFF	○	・外出時及び帰宅時にPC.モーターの電源OFFの徹底 複合機省エネモード



・取組み紹介

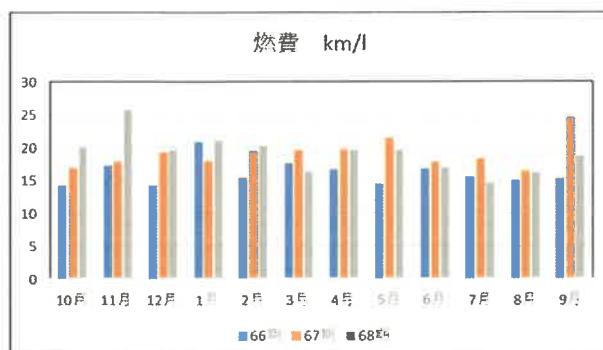
- ・電気量の推移(使用量・グラフ)を毎月従業員にメール配信の実施
- ・クールビズ、ウォームビズの従業員への周知と訪問者への掲示
- ・休憩時間の消灯の継続実施
- ・帰宅時、外出時のOA機器の電源OFF及びモニター電源のOFF徹底

・次年度の取組み計画

- ・事務所移転の為データ収集
- ・引き続き使用量の量、グラフによる啓蒙を実施する。
- ・モニター電源については、管理者による巡回確認を実施する。

・ガス設備は無

自動車用燃料の燃費向上	達成状況	取組み結果とその評価
数値目標	○	・営業車2台をハイブリッド車へ更新した事で燃費向上 ・各担当車両の加減速燃費の70%数値を意識してエコドライブ徹底
・4台の燃費数値の意識付け	○	・毎月の燃費を各担当者へ知らせ意識してエコドライブ徹底
・トランクルームや車内の2Sの実施	○	引き続き燃費数値の意識付けを継続実施する。



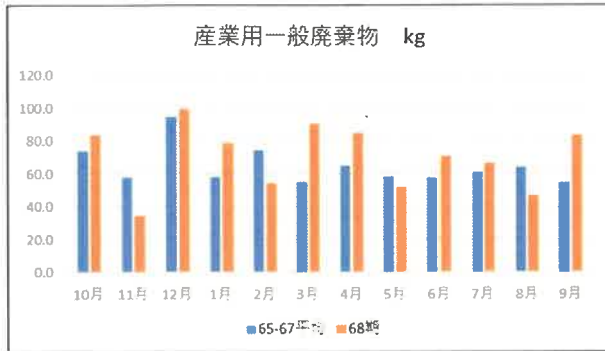
・取組み紹介

- ・各車の燃費数値を毎月メール配信し、営業会議資料として提出
- ・東京都交通安全協会から発行される『交通安全ジャーナル』の閲覧とともにエコドライブの啓蒙
- ・トランクルームや車内を各自が2Sを実施している
- ・ドライブレコーダーの日々の自主確認
- ・定期的にタイヤの空気圧の確認をする

・次年度の取組み計画

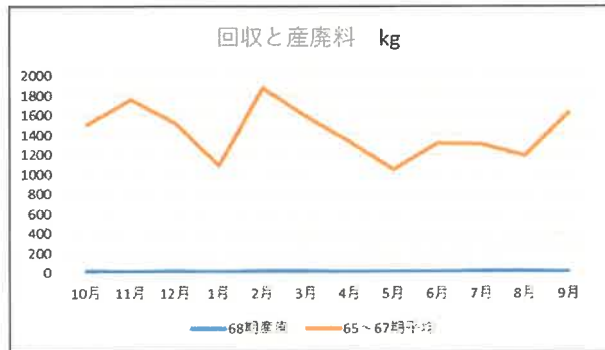
- ・前年内容を引き続き実施

一般廃棄物の削減	達成状況	取組み結果とその評価
数値目標	×	・前3ヶ年比以下を目標 所沢倉庫有人化で廃棄物が増えている
・資源と一般ごみの分別	◎	・資源として再利用可能品のリサイクルを進める。
・梱包材の仕入先様への返却及び再利用	◎	



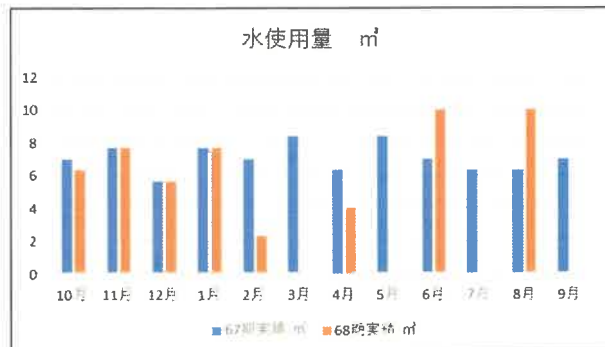
- ・取組み紹介
 - ・日々の情報連絡が変わり紙の使用量が増えているが裏紙として活用
 - ・裏紙への有効利用 (A-3⇒A-4 2枚、B-4⇒B-5 2枚)
 - ・梱包補助材としての利用促進
 - ・目標値を前年比から継続管理のため、3ヶ年平均以下に変更した
 - ・68期より所沢倉庫が有人となり廃棄物重量を加算
- ・次年度の取組み計画
 - ・所沢倉庫有人化に伴い基準値の見直しを行う
 - ・引き続き使用量のグラフによる啓蒙を実施する。
 - ・将来的には紙から、電子化による情報連絡にする。

産業廃棄物の低減 (リサイクル率の向上)	達成状況	取組み結果とその評価
数値目標	◎	・プラボビンの産廃率は0%であった。(リユース・リサイクル)
・美品回収数を増やす	◎	・客先への依頼等の効果が出ている。



- ・取組み紹介
 - ・客先への美品回収の協力依頼 (リユース)
 - ・残線の除去作業時の刃物の不使用
 - ・使用後ボビンの雨、泥等の付着防止
 - ・客先表示方法(不減インク)の再検討依頼
 - ・汚れ品は新規ボビン製作の原料とする (リサイクル)
- ・次年度の取組み計画
 - ・回収数の量、グラフによる啓蒙を継続実施する。

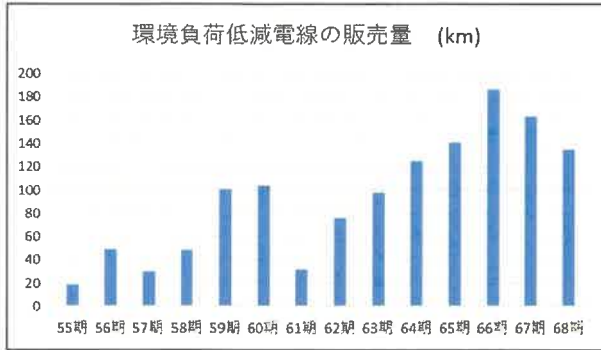
水道量の削減	達成状況	取組み結果とその評価
数値目標	-	・事務所移転によりデーター収集
・水漏れのチェック	○	・トイレ2ヶ所 (節水型)、シンク1器 (蛇口節水タイプ)
・節水の継続的な啓蒙活動	○	・水漏れ、設備故障がない月に一度確認。



- ・取組み紹介
 - ・使用量の数値・グラフの従業員にメール配信の実施
 - ・水漏れの発見時に早急に管理会社への連絡
- ・次年度の取組み計画
 - ・事務所移転につきデーター収集
 - ・引き続き使用量のグラフによる啓蒙を実施する。

新社屋へ移転、2月より2か月毎となる

環境負荷低減製品（エコ）の販売促進	達成状況	取組み結果とその評価
・数値目標は置かない	-	・最終顧客のケーブル仕様によって、その有無が決まるが、引き合い時に仕様、メーカー指定等の確認を徹底する。



- ・取組み紹介
 - ・環境負荷低減製品（エコ電線）は一般的に高価なため最終顧客（官公庁や電機機器会社）からの指定がほとんどである。また、その使用量は景気動向によって左右されるため営業訪問時、引き合い時にエコケーブルのPRの実施をする。
 - ・需要動向の変化で使用量が減っている
- ・次年度の取組み計画
 - ・前年内容の引き続き実施

環境関連資料の情報提供	達成状況	取組み結果とその評価
数値目標	○	・特定メーカーの遅れが目立った。
・仕入先様へのフォロー	○	・遅れている案件は要求元にも必要確認し、仕入先に情報連絡をする。
・転用可能な資料の使用	◎	・仕入先様に了解のもと、転用を実施していく。



- ・取組み紹介
 - ・仕入先様了解のもと共用できる資料は他の顧客様に転用実施
 - ・メーカーにより要求後3か月程度の納期がかかっている短納期の要求が多く、要求先へはおおよその回答納期を伝え理解を頂く
- ・次年度の取組み計画
 - ・前年内容を引き続き実施

VIII. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項	活動・設備・自社の対応
労働安全衛生法	・安全と健康、快適な職場環境の確保	・安全運転管理者の設置 ・SDSの提供と最新版管理
毒物及び劇物取締法	・必要事項が記載された『譲受書』を受ける ・毒劇物のSDSの提供	・社内配送、サンプル保管も不可
フロン排出抑制法	・フロン類の管理の適正化	・第1種特定製品の簡易点検の実施 ・総務/ビル管理会社にて実施
廃棄物処理法	・契約書（運搬用、収集運搬用、処分用）と管理表の保管	・管理表は5年間保管
リサイクル法	・廃棄物の発生を抑制し環境の保全に努める	・再使用の促進
家電リサイクル法	・特定家電用機器の長期間の使用と廃棄物にする場合は適切に処理する	・再利用以外は費用を支払う
小型家電リサイクル法	・小型電子機器（28品目）を回収し再資源化	・産廃指定業者への回収依頼
自動車リサイクル法	・廃棄物の適正な処理、資源の再利用	・自動車引き取り業者への引き渡し
環境保護条例	・地球温暖化対策の推進 ・自動車の環境への負荷低減	・地球温暖化対策報告書の提出 ・法令に即し整備された車両を使用
港区環境基本条例	・環境負荷低減、自然環境を適正に保全	・花壇の整備 ・会社周辺の定期的な清掃
顧客要求事項	・顧客からの要求事項の対応	・環境関連資料の提供 ・輸出貿易管理条令による非該当証明書の提供

環境関連法規制等の遵守状況の評価結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去10年間ありません。

IX. 外部からの環境上の苦情・要望など

68期[2022年10月1日～2023年9月30日]は記載するような該当事項はありませんでした。

X. 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2023年12月8日

目標・計画の達成状況

2023年2月新社屋完成に伴い電気・水道のデータ収集をし、新たに目標数値の設定を行う。
営業車をハイブリッド車に変えた事で、燃費向上へつながっている。
今後もさらにエコドライブ徹底に努めること。
電線巻枠を再利用し、美品以外は産業廃棄物として処分していたものを、新規巻枠製作の材料とすることで産業廃棄物処分を無くす事が出来た。
配送方法等考慮した運営をし、まとめ発注をいただき効率の良いルート配送ができています。

組織を取り巻く経済環境

銅価の高騰が依然続いている中、各メーカー工場での動力サーチャージの導入・価格改定があり価格上昇が止まらない状況。
67期より部材不足が続いていたが、国内部材メーカーは一部部材を除いて安定しつつある。
今後も海外品を含め安定供給できるよう努めると共に、仕入先様との情報を密にして商品の確保をし顧客への情報・製品の提供に努めること。

環境経営方針 ■ 変更なし □ 変更あり
環境経営目標・計画 ■ 変更なし □ 変更あり
実施体制 □ 変更なし ■ 変更あり